

## <今朝の聖書から>

村上定幸

【主人が帰って来る】“主の再臨”への備えは、イエス様ご自身の教えとして、幾度となく語られていることです。その姿はまさしく主人です。けれども、この主人の姿は私たちがうっかり受け止めてしまう主人の姿と、かなり違っているようです。私たちは、テモテⅡ2:18にある“主人に仕えなさい。善良で寛容な主人だけにでなく、気むずかしい主人にも、そうしなさい”とあることを思い出してしまいますが、そうすると中心になるのは“私の判断”が中心となってしまいます。しかし今朝の喩の語る主人の主は全能者です。私たちは比較や損得で主人を判断することを好み、選ぼうとしますが、この主は否応なく、私たちの状況に関係なく帰っておいでになる全能の主なのです。適当に仕えたり異議を申し立てたりすることのできない主なのです。“創造主”とか“審判者”という言葉が使われますが、これを司る主なる神というべきです。

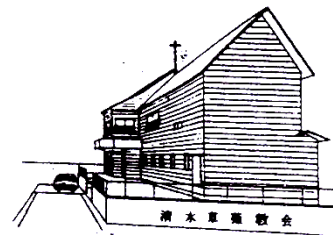
【未経験の世界】“主の力”が全てにまさって強いことは分かっています。私たちの教会は、まだ経験したことのない、いかなる力も寄せ付けられない力を、“懐かしい”といい、希望にしています。讃美歌の1・2編には、それぞれ6回ずつ“懐かしい”という言葉が歌われます。この言葉がまるで体験したことのある天の国を示す言葉として用いられています。これほど教会は、確実な救いを体験して、希望を復活においているのです。

【信仰者の姿】今朝の聖書箇所、47と48節に聞きましょう。“主人の思いを知りながら何も準備せず、あるいは主人の思いどおりにしなかった僕は、ひどく鞭打たれる”が47節ですが、教会生活も長くなりますと、こんな思いが忍び寄って来るのです。“ひどく”というのは“かなり”ということではないのです。完璧に打ちのめされ立ち直れないという裁きです。また“知らずにいて鞭打たれるようなことをした者は、打たれても少しで済む”という48節ですが、“すこしで済む”というのは、救われるということを示します。彼はおそらく、覚悟を決めて主人の前に進み出ることでしょう。“自分のことを顧みると、どうやら救われようもないことをいっばいして来た”と思いながらです。けれどもここで主は、従おうと努める者に、御自身の義を与え、罪と交換して下さるかのようになら“あなたは天国行き”と宣言して下さい。交換して下さい。

【みごとな弟子】このように見てきますと、教会生活をどのように、毎日過ごしているのかをイエス様は聞いておられることが分かります。弟子たちは、この問いに直面したのです。“目標を目ざして走り、・・・得ようと努めているのである”という御言葉がピリピ書3:14にあることを思い出しましょう。誰も完全だということは出来ないと思います。理想的な姿になってしまったクリスチャンなんておそらくいないでしょう。ただ前向きであることです。完全な信仰者というのは、この努力の姿のことです。

# 週報

2011年 8月 28日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリースタジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

振替口座 00890-6-214042